

ハノイセミナー2022のためのプレセミナー

～オンライン開催～

2021年9月19日（日）

参加費：無料

定員：300名

日本時間 10:00-15:20 ベトナム時間 8:00-13:20

＜参加受付 開始日：2021年6月19日（土） / 締め切り日：2021年9月1日(水)＞

開催趣旨:日本とベトナムの両国の日本語教育関係者と企業・事業関係者が、両国における持続的で発展的な人材育成をどのように進めていくのかにつき多様な視点から議論を行う「ハノイセミナー2022」につなげる出会いの場を提供する。

主催：アジア人材還流学会

https://sec.tobutoptours.co.jp/2020/hanoi2020/4_main.html

プログラム概要

	時間 (日本・ベトナム)
1.開式	JST 10:00 - 10:10 VST 8:00 - 8:10
2.ベトナムと関連した活動の紹介 ①看護と介護の日本語教育研究会 ②ビジネス日本語研究会 ③協働実践研究会 ④国立国語研究所共同研究プロジェクト 「日本語学習者のコミュニケーション の多角的解明」	JST 10:10 - 11:40 VST 8:10 - 9:40
休憩（10分）	JST 11:40 - 11:50 VST 9:40 - 9:50
3.協賛社（4社） ベトナムとの関連事業等の紹介	JST 11:50 - 13:00 VST 9:50 - 11:00
昼休憩（30分） バナー提供社テーブル	JST 13:00 - 13:30 VST 11:00 - 11:30
4.ベトナムの日本語教育事情に関する報告 / ハノイ国家大学外国語大学 ダオ ティ ガー ミー（学部長） ドー ホアン ナム(科学技術課長)	JST 13:30 - 14:10 VST 11:30 - 12:10
休憩（10分）	JST 14:10 - 14:20 VST 12:10 - 12:20
5.パネルディスカッション 5機関 ＜テーマ:日本とベトナム両国における 持続的で発展的な人材育成＞ ①看護と介護の日本語教育研究会 ②ビジネス日本語研究会 ③協働実践研究会 ④国立国語研究所共同研究プロジェクト 「日本語学習者のコミュニケーション の多角的解明」 ⑤ハノイ国家大学外国語大学	JST 14:20 - 15:10 VST 12:20 - 13:10
6.閉式	JST 15:10-15:20 VST 13:10-13:20



来年はハノイでお会いしましょう！
ハノイセミナー2022

開催日：2022年9月17日（土）・18日（日）

会場：ハノイ国家大学外国語大学
（ベトナム・ハノイ）

<https://sec.tobutoptours.co.jp/2020/hanoi2020/>



nhật liệt đón.

参加申込

以下のリンク、または右側のQR
コードからお申し込みください。

<https://forms.gle/bjeFYvMFdTzEdBiN9>



お問合せ

アジア人材還流学会ハノイセミナー運営事務局
メール：ajiakanryu@gmail.com

開催スケジュール

時間 (日本・ベトナム)	総合司会　神村初美（事務局長・ハノイ工業大学）
JT　10:00 – 10:10 VT　8:00 –　8:10	プログラム1. 開式 開会のあいさつ：西郡仁朗（会長・東京都立大学）
JT　10:10 – 11:40 VT　8:10 –　9:40	プログラム2. ベトナムと関連した活動の紹介 司会：舘岡洋子（早稲田大学） ①看護と介護の日本語教育研究会：宮崎里司（早稲田大学） ②ビジネス日本語研究会：奥田純子（コミュニケーション学院） ③協働実践研究会：池田玲子（鳥取大学） ④国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」：宮部真由美(鳴門教育大学)・野田尚史（日本大学）・蒙韞(新潟大学)・神村初美(ハノイ工業大学)
JT　11:40 – 11:50 VT　9:40 –　9:50	休憩（10分）
JT　11:50 – 13:00 VT　9:50 – 11:00	プログラム3. 協賛社によるベトナムとの関連事業等の紹介 司会：小平めぐみ（国際医療福祉大学大学院） 一般財団法人教育医療国際交流財団/ 現代俳句協会 学校法人エール学園 ベトナム人財のCICS 国際協力サービス株式会社 奈良東病院グループ
JT　13:00 – 13:30 VT　11:00 – 11:30	昼休憩（30分）. バナー提供社テーブル ココ出版 / コミュニカ学院 / ジャパンライム / 日経HR / NPO法人AHP ネットワークス / 凡人社 /BPC(Business Process Communication Training Service)
JT　13:30 – 14:10 VT　11:30 – 12:10	プログラム4. ベトナムの日本語教育事情に関する報告 司会：栗飯原志宣(日越大学) ダオ ティ ガー ミー（ハノイ国家大学外国語大学・学部長） ドー ホアン ナム（ハノイ国家大学外国語大学・科学技術課長）
JT　14:10 – 14:20 VT　12:10 – 12:20	休憩（10分）
JT　14:20 – 15:10 VT　12:20 – 13:10	プログラム5. パネルディスカッション <テーマ:日本とベトナム両国における持続的で発展的な人材育成> コーディネーター：近藤彩（昭和女子大学） ①看護と介護の日本語教育研究会：西郡仁朗（東京都立大学） ②ビジネス日本語研究会：堀井恵子（武蔵野大学） ③協働実践研究会：池田玲子（鳥取大学） ④国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」：野田尚史（日本大学） ⑤ハノイ国家大学外国語大学：ダオ ティー ガー ミー
JT　15:10– 15:20 VT　13:10– 13:20	プログラム6. 閉式 閉会のあいさつ：奥田純子（副会長・コミュニケーション学院）
JT　15:20– VT　13:20 –	懇親会

発表要旨

プログラム2. ベトナムと関連した活動の紹介

司会：舘岡洋子(早稲田大学)

①看護と介護の日本語教育研究会

「ベトナム人介護技能実習生への日本語教育-アーティキュレーションの観点から-」

登壇者：宮崎里司（早稲田大学）

看護と介護の日本語教育研究会では、看護と介護に係る日本語でのコミュニケーションを軸に、外国人看護・介護人材が尊重され活躍できる体制の提言・教育教材の集約とその一覧化・各種の催しや教師研修を行ってきた。本発表ではこれらの中から具体的な事例として、介護の技能実習生に対する日本語教育支援を紹介し、移民政策に舵を切ろうとする日本側の重要なソフトインフラの課題を、日本語教育政策の観点から発信する。

②ビジネス日本語研究会

「ベトナムの日本語人材育成を担当する教師のための研修」

登壇者：奥田純子（コミュニケーション学院）

ビジネス日本語研究会（SBJR）は2010年より活動を始め、これから日本語で仕事をしようとする外国人材、すでに日本語で仕事をしている外国人材のみならず、彼らと共に働く日本語母語話者に対するビジネス日本語教育の実践・研修を行う教師・研究者に向けた情報共有や研鑽の場を提供してきた。これまで、ベトナムをはじめ、国内外の教育機関からの依頼を受け、現地の教員に講義やワークショップを行っており、パネルではその一端を紹介する。

③協働実践研究会

「ベトナム人日本語教師対象の長期型オンライン研修の取り組み」

登壇者：池田玲子（鳥取大学）

2010年設立の協働実践研究会は、海外各地域に実践研究の拠点をもち、ベトナムにも2箇所に拠点がある。現在、ハノイとフエの2つの大学でベトナム人日本語教師対象の長期型オンライン研修を継続している。2つの研修では「協働実践研究」という同一のテーマを掲げながらも、各大学個別の事情をできるだけ考慮した内容・進め方ができるよう、講師側と各大学のコーディネータとが常に検討を重ねていく協働体制をとっている。

④国立国語研究所共同研究プロジェクト

「ベトナム語を母語とする日本語学習者の調査研究」

登壇者：宮部真由美(鳴門教育大学)・野田尚史(日本大学)・蒙韞(新潟大学)・神村初美(ハノイ工業大学)

国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」で行ってきた日本語学習者の調査研究について報告する。「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」（I-JAS）や「日本語学習用辞書のための聴解困難点調査」を中心に、ベトナム語を母語とする日本語学習者を対象に行った調査結果について紹介し、調査結果をどのように生かすことができるかについて述べる。

発表要旨

プログラム4. ベトナムにおける日本語教育の現状と課題

司会：栗飯原志宣(日越大学)

ベトナムハノイ国家大学外国語大学

Dao Thi Nga My (ダオ ティー ガー ミー)

Do Hoang Ngan (ドー ホアン ナム)

ベトナムにおける日本語教育は、越教育機関間の連携の強化、技能人材養成の重視、また近年の各教育機関による日本語教育関連イベントの連続性、統一性等が特徴として挙げられる。一方、教師不足、アーティキュレーションの欠如、日本語教育機関と他分野の機関の脆弱な連携が課題である。また昨今のコロナ禍で教育現場のICT化が叫ばれているがICT活用効果の向上には、今後ICT活用の環境整備や教師のICTスキル向上等が必要だと考えられる。



発表要旨

プログラム5. パネルディスカッション 日本とベトナム両国における 持続的で発展的な人材育成

コーディネーター：近藤彩（昭和女子大学）

①看護と介護の日本語教育研究会：

「ベトナムと連携した持続可能な看護・介護従事者育成への展望」

登壇者：西郡仁朗（東京都立大学）

日本語でのコミュニケーションを軸に、外国人看護・介護人材が日本国内でも本国でも尊重され活躍できる体制の提言・教材開発・各種の研修を行ってきた。今後ベトナムからは、特に、EPA、在留資格「介護」、技能実習、特定技能1号という枠組みを通じた介護従事者の増加が予測される。ベトナム側における介護従事者育成に係る教育機関との連携を図りながら持続可能な体制の提言および教育支援を図っていきたいと考えている。

②ビジネス日本語研究会：

「ベトナムにおけるビジネス日本語教員研修の開催」

登壇者：堀井恵子(武蔵野大学)

2020年度に文化庁委託「ビジネス日本語研究会の知財を活用した就労者に対する初任日本語教師のための研修開発事業」を行い、就労者を対象とする日本語教師研修を手掛けたが、2021年度も普及事業として委託を受けている。ベトナムからは今後も日本で、また、国内の日系企業で日本語を使って仕事をする日本語人材が増えると予測されている。文化庁事業での実績などを踏まえて、希望があれば、ベトナムでのビジネス日本語教員研修を開催できればと考えている。

③協働実践研究会：

「ベトナムでの日本語教師研修の今後のあり方」

登壇者：池田玲子（鳥取大学）

現在実施中のベトナムの2大学を対象としたオンライン長期型研修では、現地実施でしかできない面と、反対にオンラインだからこそ可能となる部分が明確になってきた。現地実施の場合には、日程調整や時間設定の困難さに加え、一方的な情報提供にとどまりがちであり、その後の理解の深化や発展への支援の工夫が課題となっていた。ここに、オンライン研修を効果的に組み込むことで、新たな研修のあり方が可能になるのではないかと考えている。

④国立国語研究所共同研究プロジェクト：

「ベトナム語を母語とする日本語学習者の調査研究の今後の展望」

登壇者：野田尚史（日本大学）

国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」では、ベトナム語を母語とする日本語学習者を対象として、聴解や会話、作文などの調査を行ってきた。今後はさらにさまざまな調査を行い、その結果をもとにベトナム語を母語とする日本語学習者向けの日本語教材や辞書を開発していく必要がある。その際、日本語を母語とする日本語教師とベトナム語を母語とする日本語教師の協力が重要になる。

⑤ハノイ国家大学外国語大学：

「ハノイ国家大学外国語大学における日本語教育」

登壇者：Dao Thi Nga My（ダオ ティー ガー ミー）（ハノイ国家大学外国語大学）

ハノイ国家大学外国語大学は1992年から日本語教育を開始し、現在学生が約1000名、教師が50名ベトナムで、最も規模が大きい日本語教育機関の一つである。日本言語文化学部は大学の使命である外国語教育、学術研究と社会貢献に力を注いでいる。今後産学の連携を強化し、その三つの事業の質を向上していくことが任務だと考えている。特に日本語教師養成を通して、民間日本語センターを含むベトナム全土の日本語教育の質の向上に貢献するのが今後の課題である。